

つかい手とつくり手の ニーズの共有

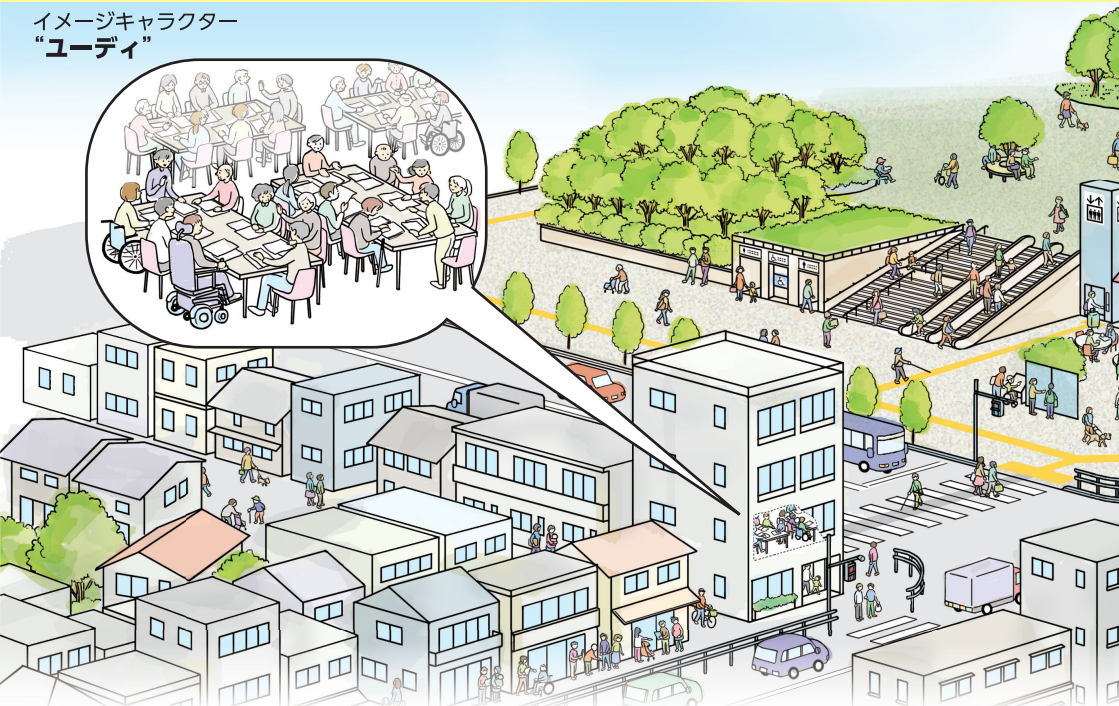
ユニバーサル
デザイン
ガイドブック

6



— さまざまなニーズを知る手法 —

イメージキャラクター
“ユージェイ”



この冊子では「つくり手」とは、事業主、設計者、施工者、施設などの管理者です。
「つかい手」とは高齢者、障害者、外国人、子ども連れの人などの利用者です。

“ユニバーサルデザイン (UD)” とは…

年齢、性別、国籍、個人の能力等にかかわらず、できるだけ多くの人が利用できるような生活環境その他の環境を作り上げることです。

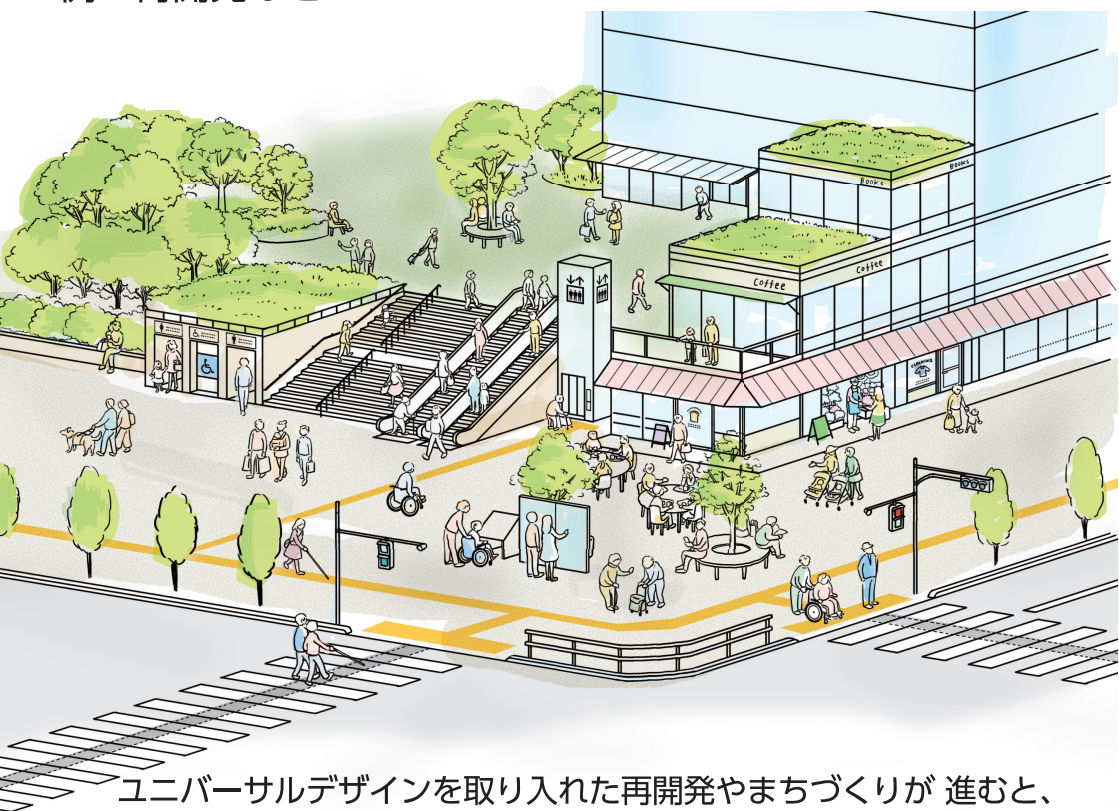
お お ひと り よう だい き ぼ たて

多くの人^{おおひと}が利用する大規模な建^{だいき}さまざま^{ぼたて}なニーズ

大規模な 建物

例：再開発など

今までも、一定規模の施設などでは、建築設計標準整備しています。しかし、基準どおりでも、つかい手そのため、つかい手の視点に立った**さまざまな**今後はより一層ユニバーサルデザインを取り入れ



ユニバーサルデザインを取り入れた再開発やまちづくりが進むと、まわりのまちにも、さまざまな人を受け入れる意識が向上し、地域貢献につながっていきます。

脚注1 「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準」 平成29年3月 編集：国土交通省

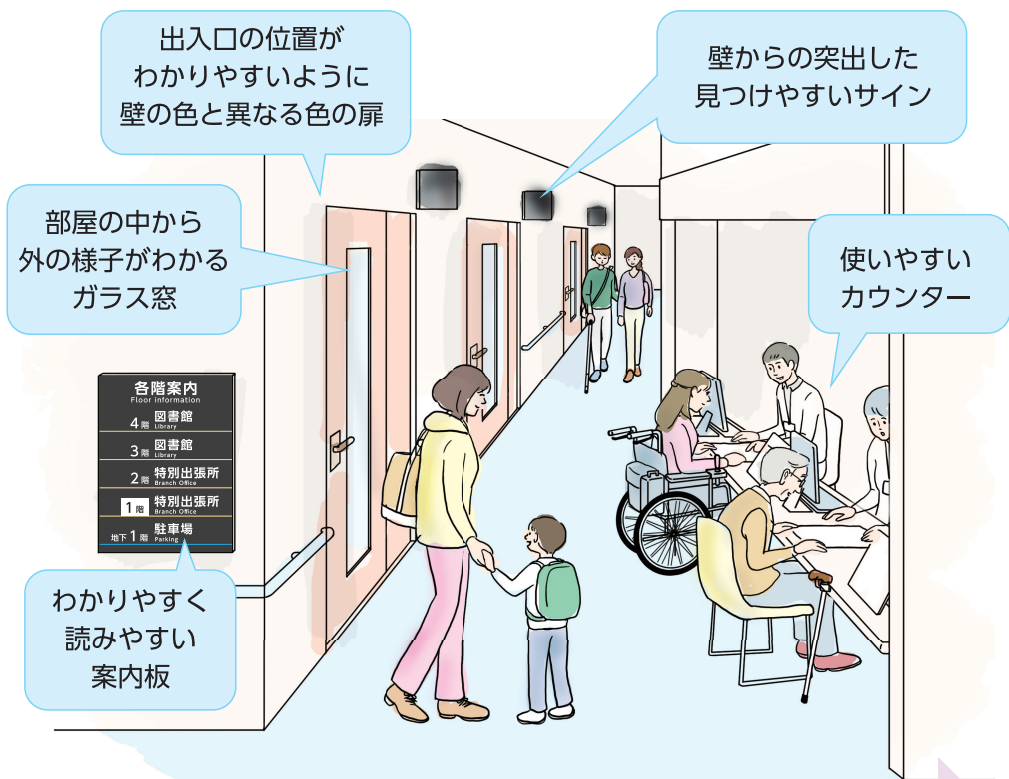
脚注2 「東京都福祉のまちづくり条例 施設整備マニュアル」 平成26年9月 編集：東京都福祉保健局

物・公共的施設などでは、 への対応が必要です

公共的
施設など

脚注1 や施設整備マニュアル **脚注2** などの基準に基づき
にとって使いにくいこともあります。

ニーズを知り、取り入れる工夫が必要です。
た施設整備を進めます。



さまざまな人と“だれもが使いやすいまちづくり”
について考え、ニーズを知る手法を紹介します。

さまざまな「ニーズを知るため」に かんが かい けん こう かん 考え、意見交換するワークショップ

手法 1 類似施設から学ぶ



1 事前に確認

新たに整備する施設の内容やUDの整備内容を確認します。

車いす使用の人と
使ってみるとわかります



洗面台の位置がちょっと…

外国人と見学するときに
外国語表記が必要かわかります



日本語ばかり…。
どうやって
探せばいいの？

車いす使用の人が
2人乗れるって
いいね。



2 UDの視

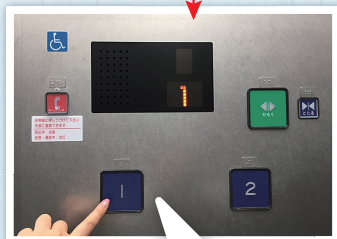


カウンター越しに
説明受けたり、
書いたりすると
わかります

て つかい手とつくり手が共に体験し、 て とも たい けん でUDの課題を整理します

新たな
発見が
できます!

エレベーターに乗るとわかります



操作しやすい
大きなボタンや、
点字もあるんだね



掲示板にある
チラシを
見ようとする
とわかります

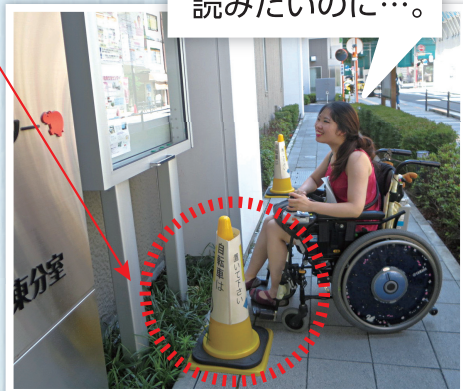
音声案内
だけでなく、
文字で読める
から安心。

近づいて
読みたいのに…。

点から見学



ちょっと高いね。



3 ニーズの共有

見学後に課題を整理し、
つかい手とつくり手で
ニーズを共有します。

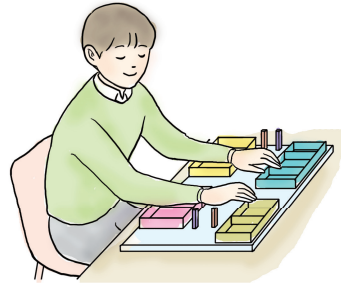
7/15

UDワークショップとは、つかい手とつくり手が同じ場所で共に
体験し、考え、意見交換をする手法です。
このようなプロセスで新たなニーズに気づくことができます。

手法 2 図面や模型で検討する



模型を見たり触って、設計内容を具体的に確認したうえでニーズを確認し、意見交換します。



手法 3 実物大模型で実際に体験する

実寸の設備やサイン等を、さまざまなかき手が体験し、使いやすさ、読みやすさを確認します。



使ってみるとわかりにくかったため、利用者がわかりやすいように、サインを追加した事例

ワークショップでは、
こんな意見もありました

つくり手の気持ち



障害のある人など、つ
かい手に施設の使い方を
聞いたことがないので、
実はニーズを知りません。

事業主からは、基
準以上は求められて
いないので…。



少数の人のニーズ
のために、お金のか
かる工事をするのは
難しいです。



UDを考えると、
色々なニーズに対応
しなくてはならず、
難しいです。



UDの視点

さまざまなつかい手と
意見交換するとニーズを
知ることができます。

*協力できるさまざまな団体が
あります。

東京2020大会をキッカ
ケに、さまざまな人の利用
が増えていくので、UDの
対応が求められています。

子ども連れの人や、障害のある
人たちは友人や
家族と一緒にお
店に入ると嬉
しいです。



さまざまなニーズを
聞いて、できることから
反映させることが大切です。

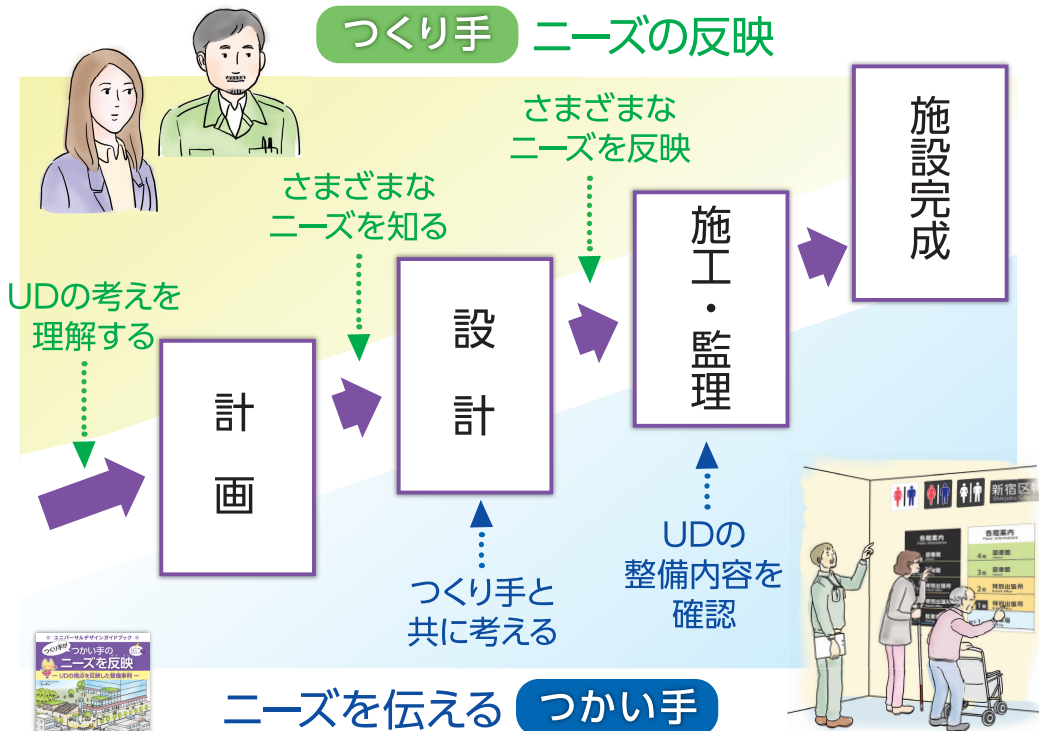
ユニバーサルデザインのまちづくりでは、
さまざまなつかい手とつくり手が共に考え、
ニーズを反映していくことが大事です。



つくり手がUDに取り組む流れ(例)

～ つくり手とつかい手が共に考えUDを導入する ～

つくり手 ニーズの反映



ニーズを伝える つかい手

*ユニバーサルデザインガイドブック⑦と合わせてご覧ください。

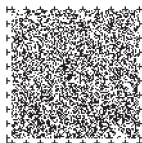
編集・発行 新宿区 都市計画部 都市計画課
〒160-8484 新宿区歌舞伎町1-4-1
電話：03-5273-3527 FAX：03-3209-9227

新宿区 UDのまちづくり 検索

デザイン 株式会社アークポイント・有限会社レゾナ
イラスト 白玉社 杉野悦子



この冊子は区民参加のワークショップで検討しました。



左のコードは目の不自由な人などへの情報提供に役立てられている音声コードです。横の切欠きは音声コードの位置を示します。

印刷物制作番号
2017-21-4001

平成30年3月